

周防鑄銭司設置1200年を迎えます

今回の特集では、周防鑄銭司は何のために設置されていたのか、その歴史や役割について、また、「知る」「学ぶ」「体験する」記念イベントの情報も交えてご紹介します。

☎ 文化財保護課 ☎ 083-920-4111



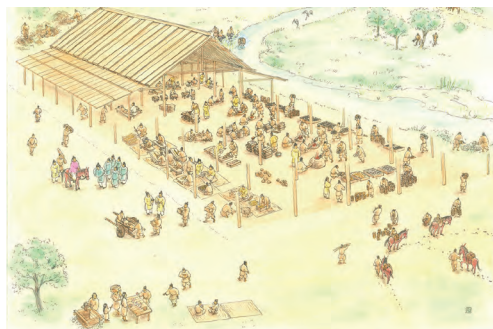
すおうのじゅせんしあと

史跡周防鑄銭司跡とは？

山口市の南部にある鑄銭司^{すぜんし}という地名は、銭貨づくりをする役所「鑄銭司^{じゅせんし}」が置かれていたことに由来します。全国で数カ所に設置された記録が残る鑄銭司ですが、周防鑄銭司が設置されたのは平安時代の天長2（825）年のことでした。他の鑄銭司が短期間で廃止される中、周防鑄銭司は国内唯一の鑄銭司として約200年稼働しました。本年は、周防鑄銭司設置から1200年の節目にあたります。



▲現在の周防鑄銭司跡



▲銭づくり工房（復元図）

周防鑄銭司では、古代の銭貨「皇朝12銭」のうち、^{ふじゅしんぼう}富寿神宝から^{けんげんだいほう}乾元大宝までの8種類の銭貨を生産したと文献史料に記されています。これまでの発掘調査でそのことを裏付ける鑄損じ銭などの資料が見つかっており、4種類の銭貨を生産していたことが明らかになっています。他にも、銭貨づくりに関する道具類や木簡、硯などが発見されています。



本市の取り組み

本市では、昭和48（1973）年に周防鑄銭司跡が国の史跡として指定されて以降、土地の公有化や環境整備など史跡の保護に努めています。また、近年は山口大学と連携して発掘調査を行い、周防鑄銭司の解明を進めるとともに、説明会や鑄造体験などを通じて、多くの方に周防鑄銭司について知ってもらう取り組みも行っています。



▲現地説明会



1200 年記念事業のご紹介

設置 1200 年という節目の年にちなみ、周防鑄銭司の歴史や文化を感じられるイベントを多数開催予定です。

体験する 周防鑄銭司まつり(仮)

日時 10 月 11 日(土) 10 時～14 時
会場 史跡周防鑄銭司跡(山口市鑄銭司地内)
共催 鑄銭司自治会

- 古代体験ワークショップ
銭貨鑄造・木簡(墨書)づくり・勾玉づくりなど古代に関わるものづくり体験や、発掘体験などを各ブースで行います。



▲銭貨鑄造体験

- 現地説明会
史跡周防鑄銭司跡第 10 次調査の発掘現場で調査状況についての説明会を行います。
- 餅まき(古代米入り)
- 富寿神宝の草絵と「1200」の人文字

学ぶ 記念講演会

「みえてきた周防鑄銭司」をテーマに、山口大学人文学部准教授 黒羽亮太氏による記念講演を行います。

日時 9 月 27 日(土)
13 時 30 分～15 時 30 分
会場 山口南総合センター ホール

知る 展示&ラリー

歴史民俗資料館で「古代の山口」をテーマとした企画展を開催し、併せて市内 4 館で連携スポット展示を行います。

期間 7 月 19 日(土)
～11 月 24 日(月・休)
※展示替え
9 月 29 日(月)～10 月 3 日(金)

連携展示館

鑄銭司郷土館
小郡文化資料館
山口県立山口博物館
山口大学埋蔵文化財資料館



その他にも、上記の連携展示館に「歴史民俗資料館」を加えた 5 館を巡るラリーイベントや、鑄銭司と陶地域の歴史文化資源を巡るラリーイベントも開催予定です。

鑄銭司郷土館展示リニューアルオープン!

鑄銭司郷土館は、史跡周防鑄銭司跡や貨幣の歴史、鑄銭司地域が生んだ幕末維新の先覚者である大村益次郎の事跡を紹介する資料館として昭和 59 年に開館しました。本年 4 月に、開館以来、初めて展示スペースのリニューアルを行いました。



▲第一展示室リニューアル

大村益次郎がもつ医学者、洋学者、兵学者、そして教育者というさまざまな側面や、幕末維新や近代日本の建設に力を尽くした生涯を、新たに収集した資料や大型グラフィックパネルなどを活用して展示しています。

第一展示室



▲鑄銭司郷土館の外観



鑄銭司郷土館館長
檜山 由一

新しくなった鑄銭司郷土館に、皆様ぜひお越しください。



▲第二展示室リニューアル

富寿神宝をはじめとした「鑄損じ銭」などの資料や、遺構から復元した銭貨鑄造工房のイメージ図など、最新の発掘調査の成果をもとに、史跡周防鑄銭司跡の価値と魅力を伝える展示として、併せて、日本の貨幣の歴史として、古代から現代に至る貨幣の移り変わりを紹介しています。

第二展示室